

ぶらり由良めぐりハイキング

あと
—阿戸コース—

由良町内をぶらり歩いて巡りませんか!!

コース及び概略 約3・3キロ 所要時間 約1時間半～2時間

由良町役場前 → ①^{うさ}宇佐八幡神社お旅所 → ②^{さくらじまあと}桜島跡 → ③^{すけた}祐田の地蔵さん → ④^{たなか}田中の地蔵さん → ⑤^{きょうせんじ いえもち}教専寺（家茂將軍使用の風呂桶・形見の片袖の半鐘・手洗石他） → ⑥^{あしはら}葦原会場 → ⑦^{くにす}国主神社跡 → ⑧^{なかす}中洲の地蔵さん → 由良町役場前



平成29年度作成 ゆら語り部クラブ

① ^{う さ はちまんじんじや たびしょ} 宇佐八幡神社お旅所

宇佐八幡神社のお旅所は、明治43年の合祀後、何回も場所を変えて来ました。昭和55年～57年に、由良港湾臨港土地造成事業で阿戸海岸が細長く埋立てられました。それまで、海上自衛隊由良基地分遣隊の東側（現在・道路）にあった場所から移転され公園を兼ねています。



② ^{さくらじまあと} 史跡 桜島跡

この地は、^{かくしん} 覚心（^{ほつとう} 興国寺開山・^{けんちよう} 法燈国師）が建長6年（1256）^{そう} 宋（中国）から帰国の際に、^{しらくいす} 白杭洲という所で、^{しやくじよう} 錫杖と^{けさ} 袈裟を忘れた所、^{ばんり} 錫杖は竜と化し、^{はとう} 万里の^{はとう} 波濤を泳ぎ、^{けさ} 袈裟は^{れいき} 靈龜の背に追われて来たという伝説の島であった。

しかし、昭和57年（1982）の埋立で姿を消し、島に建てられていた七重の^{せきとう} 石塔は公園に移されました。



③ ^{すけた} 祐田の地蔵さん

阿戸には三地蔵といわれ、まとめて祀られている地蔵さんがあります。その内の一つであるこの祠には、^{まつ} 四体の地蔵さんが祀られています。この場所は、^{しらき} 白木にありながら、^{すけた} 祐田の^み 身代わり地蔵と呼ばれています。明治9年5月、^{えんしゅうなだ} 遠州灘で暴風雨に遭った住栄丸が砕けて乗組員の^{すけた} 祐田重右衛門だけが^{きせきてき} 奇跡的に助かったという。これは、家に祀っていた地蔵さんが身代わりになって助けてくれたという事から付いたものと伝えられています。



たなか
④田中の地蔵さん

昔の旧道・十七曲りへ行く道沿いに祀られています。古い昔はここまで海であったと思われる浸食された岩穴を利用して祀られていたが、急傾斜工事が行われ、立派な祠に祀られています。

ここは、通称秀の浜（秀）というが、小字田中の方が祀っているため、田中の地蔵さんとよばれています。子安地蔵である。立像の地蔵・五輪塔・宝篋印塔部分等二十体近い数の石塔が祀られていて、ほとんどが江戸時代頃のものと思われま



きょうせんじ
⑤教専寺

500年を越す歴史をもつ浄土真宗本願寺派の寺院であるこの寺に、徳川第14代将軍家茂公（当時19歳）が入浴された風呂桶が大事に保存されています。（非公開）時は風雲急をつげる幕末、文久4年（1864）、汽船で大坂城に向かう朝倉播磨守を上使とした150名の一行が立ち寄った時のものです。

正月6日、由良港へ停泊、阿戸の教専寺を本陣として休息され、午後3時頃帰艦、翌7日・午前10時頃、網代へ上陸され、徒歩で横浜を経て、再び教専寺へ行かれた上、昼食、午後3時過ぎには入浴され、夕食後、午後4時頃に船に帰られた。

時の住職は、智芳という方で、ミカン一籠を献上し、銀子3枚を賜ったという。教専寺は、他に、【形見の片袖】の伝説をもつ半鐘（元禄12年=1699）と、町内現存で最も古い手洗石が残されています。



あしはらかいじょう
⑥葦原会場

阿戸区の青年会場である。祭の保存会の名称は葦原会という。そこから、【阿戸

【葦原會々場】の横看板が掛けられています。玄関は元国主神社から移転したと伝えられているが、元の姿ではない。東側に「力石」4個が並べられている。約16貫（60キロ）～50貫（187・5キロ）はありそうです。



⑦国主神社跡

葦原会場から宮川という小川沿いに溯ると、「国主神社旧址」の石碑が、小川の向う側に建てられています。石垣が残り、小川に石橋が一本残っていて、神社跡は蜜柑畑と、畑に変わっている。

ここは、明治43年まで、旧由良村第2の宮「国主神社」が祀られ、大国主命を主祭神として阿戸、網代、江ノ駒の産土神として祀られていたが、明治の合祀令で宇佐八幡神社へ合祀されました。現在、宇佐八幡神社の主祭神は、八幡大神（応神天皇）、住吉大神、大国主命の三神が祀られています。



⑧中洲の地蔵さん

阿戸の3地蔵のひとつ、中洲の地蔵さんです。道路の付け替えで、交差点の南東の道路脇に祀られていたのを、交差点の北東側の凹んだ歩道沿いに祀り替えています。

現在の祠は、平成22年10月に建て替えられたと書かれています。

